2部

現場（フィールド）から現場（フィールド）へ

レポート

OB MESSAGE

長い学生生活を終えて

通信教育部福祉心理学科卒業生　**山本 道子**

はじめに

私は、2003年に１年次入学をし、４年の休学を経て、10年の在籍期間満了。2017年、再入学で３年次編入し、2020年３月に福祉心理学科を卒業しました。こんなに長い期間、どのような学生生活を送ったかについてお話させていただきたいと思います。

勉強法について

自分の住んでいる地域の図書館は、専門書の数が少ないため、少し遠くの図書館に仕事が休みの日に参考文献を探しに行っていました。主に、課題集にある参考文献の図書だけでなく、目次の見出しや巻末の索引をみて、課題に関連のある用語があれば、そのページを抜き書きする作業をしていました。が、その作業もなかなか進まない。『With』に載っていた、他の学生さんの勉強法を順番に試してみたり、スクーリングで知り合った友人に聞いてみたりしました。

例えば「図書館に開館から閉館までこもり、１単位分のレポートを何が何でも書く」「科目修了試験の申し込みを先に出し、締め切り日までにその科目のレポートを仕上げる」「パソコンで思いついた文章を打ち、切り貼りしながら文章を完成させる」「有料の自習室に行く」などを実際にやってみました。その結果、自分は自宅では気が散って勉強できない、周りが勉強している雰囲気のあるところであれば、なんとか集中することができる、ということがわかり、図書館や自習室にこもり勉強していました。

レポートについて

先程述べたような作業をしていれば、文章を組み合わせればなんとか書くことができるのでは？　と思われるかもしれません。しかし、レポートを書こうと思って原稿用紙に向かっても、最初の１文すら出てこない。また、いざ、書き始めても1,000字にやっと到達するくらいしか書くことができないことがあり、原稿用紙に1,000字はここまで、というように線を引き、とりあえず文章をここまで書く、という目標をたてて書くということをしていました。

ある科目では、参考文献に書かれている内容について、特に疑問を持たなかったこともあり、そのまま、参考文献の主張に沿って作成したレポートを提出しました。再提出とはなりませんでしたが「鵜呑みにして自説に取り込んだものではレポートになりません。」と指摘されました。読んだ文献を再考する、ということすらできていませんでした。

課題を読む → 課題に対するアドバイスを熟読する → テキストや参考文献を読む → 自分はどう考えるのか → 自分のことばで、考えたことやわかったことなどをまとめ、文章にする

という過程を繰り返すことができるようになったのは、１年次入学の在籍期間が満了に近づいた頃でした。スクーリング試験での論述やレポートを何回か書くにつれ、何を求められているのか、ということが少し見えてくるようになったことや、書くということに慣れてきたことも大きかったのかもしれません。また、毎回返却されるレポートに、温かい励ましのコメントや適切な助言をいただけたことも大きな励みになりました。

スクーリングについて

2019年度に開講された福祉心理学演習では、通信教育ではなかなか体験することができない、論文講読をゼミ形式で受講することができました。自分の関心をもっている内容についての論文を検索するところから始まり、自分が同じ研究をするのであれば、ここをこうしたら面白いのではないか？　などの論文の読み方やデータの読み方などを山口奈緒美先生にご指導いただきました。どうしても受け身になってしまう講義とは異なり、マンツーマンでの授業であったことから、論文に書かれている内容を検討することによって、問題意識を持つことや課題を見いだす面白さを発見でき、充実した１日を過ごすことができたことは、長い学生生活を送ったことに対するご褒美かな、と思っています。

最 後 に

人より長い学生生活を送ることができたのは、家族や職場などの理解や協力があり、環境に恵まれたからこそ、卒業にまでたどり着けたのだと思っています。その中で、学ぶということの楽しさやつらさを経験するだけでなく、問題意識をもち、自分はどう考えるのかということを身につけることができたのではないかと思っています。

入学の目的や置かれている環境はさまざまだと思いますが、ご自分のペースで楽しく学習を続けていただければと思います。